



はつらつ 通信



Vol. 136

2016.5.1

●発行 医療法人北志会 札幌ライラック病院
●編集 はつらつ通信局

医療安全のために

医療安全の連携会議を当院で開催

去る4月23日(土)正午から、札幌ライラック病院にて第2回医療安全グループ病院連携会議が行われました。当院の関連病院である宮の森記念病院、登別市の登別すずらん病院、釧路市の釧路中央病院と東北北海道病院、青森県青森市の青森厚生病院、同県黒石市の黒石厚生病院の6病院から担当者計11名、当院からは三上初美看護部長と医療安全管理者の加藤明子主任の2人が出席しました。

経験を共有し、医療の質の向上に活用

この会議は年2回、参加病院が持ち回りで会場を提供して開かれています。開催のきっかけは、昨年初めに関連病院間で医療安全管理について互いの経験と情報を共有し、ともに医療の質を高めようという声かけがあったこと。昨年4月に初顔合わせとなる第1回の会議が行われ、具体的なテーマを決めての本格的な取り組みは平成29年度からとし、それまではまず困っていることや機能した対策などの実例を持ち寄り、情報共有を図ることになりました。

今号では、4時間にわたった熱い会議の様子をお伝えします。





新職員紹介[内科・消化器科] 医長に白戸先生 が着任

今年2月1日付けで、当院に白戸博志先生が医長として加わりました。内科・消化器内科の医師として、外来・病棟での診察のほか、有料老人ホームなどへ出向いての訪問診察も行っています。着任から3カ月が過ぎ、顔と名前を覚えてくださる患者さまやご家族の方も増えました。今後ともよろしくお願いたします。



白戸 博志(しろと・ひろし) ———
1956(昭和31)年、青森県生まれ。北海道大学医学部卒業後、同大第一外科に入局。消化器外科を専門に函館協会病院、市立小樽病院などに勤務し、北海道がんセンターでは外科医長、青森厚生病院では手術部長、外科部長を務める。一昨年10月に北海道へ戻り、宮の森記念病院を経て、今年2月札幌ライラック病院医長に着任。

●熊本地震災害義援金を送りました

平成28年熊本地震で被災された方々へ、札幌ライラック病院は職員間で募った金60,796円を、5月16日付けで北海道病院協会を通じてお送りいたしました。被災地の皆さまに心よりお見舞いを申し上げますとともに、1日も早く平穏な生活に戻れますようお祈りいたします。

さまざまな病院の専門職が集まり、知恵と経験を共有 実りの多かった他院との交流

各病院がさまざまな 取り組みを発表

正午に開始した第2回医療安全グループ病院連携会議は、13時30分に約10分の休憩をはさんだだけで、終了時間の16時まで密度の濃い情報共有が行われました。



登別すずらん病院が詳細資料で状況説明

会議前半では、各病院が自院の医療安全に関する取り組みを発表。現在の検討課題や対策として取り組んでいることなどを、実際に現場で使われている表や書式、システム画面などを提示しながら、具体的に説明していききました。



釧路中央病院が独自の配薬表システムを紹介

患者さまに渡す手術前説明の記載内容をコンパクトにし、紙も用途で色分けすることで、確実な指示伝達を図った例や、手作りカレンダーで職員間の意識啓発を図った例、参加型のグループワーク研修で出席率と理

解度を高めた例など、さまざまな実例とその効果が報告されました。

先駆的な実例に感嘆 問いかけに深める議論

その中でもひととき大きな反応があったのは、釧路中央病院の配薬表システムでした。同院でリスクマネジャーを務める薬剤師の自作で、服薬チェックはもちろん、薬の写真付き情報や患者さまごとの服薬歴もパソコンで確認できるなど、現場が必要とする機能を数多く搭載。「これは売れますよ!」「うちにもほしいなあ!」とすべての病院から感嘆の声が挙がりました。

会議後半では、あらかじめメールで連絡し合ってリストアップしておいた項目について意見交換。「事故に至らなかったインシデントはどの範囲まで報告していますか?」「インシデントレポートはどうやって共有していますか?」「事例収集でインシデントが減る実感はあるけれど、報告者が困難される傾向にあつて集めるのが難しい」「事故防止策には必ずダブルチェックが挙がるけれど、実際の運用



海を越え、青森県からも2病院が出席(写真右2名)

いかけに対し、経験に根差した実践的な意見がいくつも出されました。続くフリートークでも、面会簿の管理から、床頭台のカギ、面会時の食事の持ち込みまで話題が広がり、話の尽きないまま終了時間を迎え16時に散会となりました。

悩みはどこも同じ 医療安全の基本を再認識

「どの病院も同じことで悩んでいると再認識できました」と三上看護部長。通常業務に加え、まともな役としての準備作業に追われた加藤主任も、「私たちの知らない情報や資料を得られたほか、他院の実例や経験談も大変参考になり、実りの多い会議でした」と振り返りました。



左から、当院医療安全管理者の加藤明子主任、三上和美看護部長

次回10月の会議では、議論が集中したダブルチェックと事例収集などについて、各院が半年間の取り組みとその結果を報告する予定です。当院もこれまで以上に医療安全管理に励み、関連病院との成果共有で一層の医療の質向上を目指します。

医療法人北志会

基本理念

私たちは、地域における病院使命を果たすうえで、「安心・信頼・満足」を目指し、よりよい医療サービス実践のため日々研鑽します。

基本方針

- 患者様の生命を尊重し、人間としての尊厳及び権利を尊重します。
- 専門の医療を提供し、安心して療養に専念できる環境を整備します。
- 職員は、責任と誇りを持ち、日々学習し、専門職としての使命を果たします。
- 職種・職域を超えたチーム医療を目指します。

札幌ライラック病院を受診される皆様にご協力いただきたいこと

- 心身の健康に関する情報について担当者にお伝えください。
- 医療者の説明が不十分な時には、十分理解できるまで質問してください。
- 治療やケアの方針を決める時には、ご遠慮なく医療者と話し合ってください。
- 医療者と共につくった治療やケアの計画に積極的に参加してください。
- 院内では常識的な社会人として行動してくださるようお願いいたします。
- 札幌ライラック病院は全館禁煙です。ご理解とご協力をお願いいたします。
- 札幌ライラック病院では、各階に意見箱を設置しています。ご意見やご希望がありましたら、ご遠慮なくご利用ください。

今年はいけあ室で賑やかに 高校生の吹奏楽演奏会

毎春の恒例行事 新会場で気分も一新

毎年春の院内コンサートで素晴らしい演奏を聴かせてくださる北海学園札幌高校吹奏楽部。7回目の今年は、25名の部員と顧問の鈴木典明先生を迎えて、4月6日(水)に開催されました。



これまで会場だった3階食堂スペースが昨年透析室にリニューアルされたため、今年は1階いけあ室が会場となりました。会場が待合ロビーと近くなったこともあり、いけあのご利用者さまはもちろん、外来の患者さまや高校生のご家族も見え、昨年よりも多い50名近くの方々が約30分の演奏を楽しみました。

演奏者と距離が縮まり 迫力がぐんとアップ

演目は、高齢者にも耳馴染みのある曲を中心にしながらも毎年異なり、ときには歌や踊りの要素も盛り込まれ、年々エンターテインメント度を増しています。今年はいけあ室で、鈴木先生と生徒たちがヒゲダンスを披露。会場を大いに沸かせました。

また、歌詞を配り、みんなで歌った『かあさんの歌』では、気持ち



高まって涙ぐむ方がちらほら。アンコールの坂本九メロデーでは、「若い子たちがこんなに頑張つて…」と感動の涙を流すご利用者さまもいらつしました。

今回、会場の変更で演奏者と観客席が近くなり、演奏の迫力が倍増しました。さらに、演奏会終了後にご利用者さまが高校生に声をかけて楽器の説明をしてもうなど、距離の近さが交流を促すシーンも見られました。聞く人を元気にする春の音楽定期便に、今年も感謝です。

●この度当院のホームページをリニューアルしました。

今回のリニューアルでは、ご利用される皆様にとって、より情報が探しやすいサイトを目指し、構成やデザインを全面的に刷新しました。

特に、人工呼吸器を装着されている患者様の受け入れや、人工透析患者様の受け入れなど、当院の大きな特徴について詳しく書かれていますので、ご覧いただければ幸いです。

当院では、今後ともホームページの内容の充実を図るとともに、わかりやすく、最新の情報を発信してまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。



内科、消化器内科、整形外科、神経内科、内視鏡内科、糖尿病・代謝内科、麻酔科、リハビリテーション科

診療時間
平日 9:00~12:30 13:30~17:00
土曜 9:00~12:00 午後休診
※但し急患の方は上記に限らず随時受付いたします。
面会時間 平日 14:00~20:00
土日祝 12:00~20:00
ホームページ <http://www.lilac.or.jp/>



医療法人 北志会
札幌ライラック病院 札幌市豊平区豊平6条8丁目2番18号
TEL (011) 812-8822

いけあのボランティアさん募集中!

こんな活動をしてみませんか?
①お茶出しや食事の配膳の手伝い、お話し相手
②書道や絵手紙など趣味活動の講師役、特長の発表
活動時間 ①9:30~12:30 ②14:00~15:00
お問い合わせはいけあ・中田まで